

兄弟姉妹の皆様

私たちのローマのパパ様・フランシスコ教皇様は今回のシノドスにおいて、「第2バチカン公会議を見直し、立ち戻り、生かしてほしい」とメッセージをくださいました。

2022年待降節から、ミサの式次第が新しくなりました。これも、その新しい流れの一つです。

今回はサンパウロ発行「第2バチカン公会議 公文書全集 南山大学監修 第1章 典礼の刷新と促進のための一般原則」の「I 聖なる典礼の本質と教会の生活における典礼の意義」の「各自の心構え・典礼外の祈りの必要・典礼と信心行事」について解説します。私たちも、ミサや祈りに主体的に関われるように、一緒に学びましょう。

尚、わかりやすい表現を用いるため、多くの資料を参考にさせていただいておりますことをはじめにお伝えしておきます。

主任司祭 ペトルス・ウィリー・ソバ・ドイ O.C.D.

典礼憲章

④ ～第二バチカン公会議公文書より～

聖なる典礼の本質と教会の生活における典礼の意義より～

(【典礼】とは、キリストの祈りに与ることです。)

「神の栄光」を目指す【典礼】は、泉のように私たちに恵みを注いでくれています。

私たちはこの恵みを無駄にしないよう、正しい心構えで【典礼】に近づき、心を声に合わせて、協力する必要があります。

霊的生活～神様と心の奥深くでつながること～は【典礼】への参加だけに限られません。

共同で祈る、

自室で祈る、

隠れて祈る、

そして、絶え間なく祈るべき、と使徒は教えています。

イエス様の「死の跡」～復活され、永遠であること～が、常に私たちの心と体と共に在るように、使徒たちは教えています。

イエス様を信じる私たちが教会で行う行事は、教会の決まり事と基準に沿うものであれば大いに勧められます。

各教会の「聖なる行事」～例えば、日本特有の「七五三」や「成人式」の祝い事～も尊重されるべきものですが、あくまで下記に沿っていなければなりません。

・【典礼季節】を考慮すること

典礼季節とは、聖なる過越の3日間を頂点とする四旬節と復活節、主の降誕の祭日を中心とする待降節と降誕節という固有の特徴をもつ【典礼】のことです。

・【典礼】に合っていること

・何らかの意味で【典礼】に由来していること

・信徒を【典礼】に導くものであること

何故なら【典礼】は、本質的に私たちが思う「聖なる行事」よりはるかに優れたものだからです。

(つづく)